

元気モリモリニュース



メスキリンの「プリン」(右)のお披露目

子供と行って見て、動物園や諏訪公園の魅力が、改めてよくわかりました。

4年ぶりの市議会

ずいぶん印象が変わっていました。平成11年初当選議員が最古参となり2名、私と同じ平成15年初当選が6名(私以外は4期目)、17名が平成19年以降初当選と大幅に入れ替わりました。議会報告会の開催など市民との距離を縮めようとする努力も増えてきましたし、議会報についても、各自の発言の要約はもちろん、写真撮影なども議員で行うようになっていました(当たり前だろ、と突っ込まれそうですが)。また、地域の課題に政党色は関係ない、という意識も強くなり、議員間の連携も、以前より活発になったと感じます。

新市長誕生

新人でありながら、無投票当選。はたで見るのとは違って、本人はむしろ大変だと思えます。政策については、
・子供を産み育てたいと思ってもらえるような環境づくりと教育
・産業の多様化と雇用場の確保

の2点が重点項目で、私も賛成ですが、新市長に特に期待したいことは、トップセールスとオール大牟田体制の構築です。私も、できるところは、汗をかいていきたいと思えます。

4つの柱

- ① 学校教育の充実(子供たちは未来の担い手)
 - ② 一人でも多くの仕事を大牟田につくること
 - ③ 健康運動の推進(健康は、幸せのもとです)
 - ④ 人口が減少する中、市民サービスを末永く維持していくための仕組みをつくること
- 選挙中、以上の4つのことを中心に訴えてきました。

大牟田市の発展と市民の方々のために、もう一度働ける有り難味を噛みしめながら、活動しています。また、前の2期8年の反省をふまえ、一つひとつのテーマや一人ひとりのお話にも、これまで以上に全力を尽くして、耳を傾け、徹底的に動くように心がけています。どしどし使ってください！

家族(3世代)がともに暮らせるまちづくり

◎子供たちに確かな教育と夢を！

◎働く意欲のある人に仕事と希望を！



三川坑跡の活用

三川坑は、世界遺産の趣旨（明治日本の近代化の歴史）とは外れませんが、大牟田市にとっては、また、日本にとっても、宮原坑以上に歴史的価値のある場所だと思えます。しかし、昨年の3月（選挙前）に策定された三川坑跡整備基本計画には、どうも、納得がいきません。

7億8700万円かけて、建物などを修復したり、再建したりするものですが、その後の維持管理をどうするのか（出入りをオープンにするのか、入場料をとるのか、何人常駐させるかなど）何も決まっていません。また、事務職員の風呂場や作業員の作業の振り分け場所を再現する必要があるのであるのかも疑問に感じます。少なくとも、市の財政を考えると）最低限の整備でも、3億以上はかかることになっています。そもそも、今回の世界遺産登録の意味は、構造物そのものよりも、歴史だったわけですから、三川坑でも、歴史をどう伝えるかを最優先に考える方が、いいのではないのでしょうか。



①「山ノ神神社」（趣きがあります）



②「巻き上げ機」（とにかくデカイ）



③「事務職員の風呂場」（残します?）



④「建物内部」（とっくに限界です）

三川坑から、発信すべきものは、地上での採炭システムや作業員の動きよりも、ここで起こった出来事、そして今後風化させてはならない出来事だと思えます。

三池争議に炭じん爆発。日本人はもちろん、中国や朝鮮半島をはじめとする外国人労働者の生活や労働実態など、ざっと思い浮かぶだけでも、日本でも特筆すべき歴史に満ちています。

決して立派な建物でなくてもよいので、長崎の原爆資料館や知覧の特攻平和祈念館のように、大人も子供も、何かを感じることでできる施設がここに造れないか、とっています。

特定の間人ではなく、多くの無名の人々の生活や苦勞、息遣いを感じることが出来る。そして見終わった後に、今の時代があることに感謝の気持ちが自然と湧き上がるような、そういう施設を造り上げることで出来れば、この土地が、20年後も、30年後も、大牟田の大切な場所として、全国から人が集う場所になるし、また、そうしなければならぬと思います。

世界遺産をどう活かすか。

世界遺産登録後、多くのイベントが行われました。軍艦島の仕掛け人や初代観光庁長官など、様々な人が、遺産の活用や維持・保存について、それぞれの知識と経験に基づき、アドバイスされていました。その中でも、3つの言葉が強く印象に残りました。

- ① 産業遺産は、一般的な観光としての活用は難しいので、学習の場としての活用を考えてはどうか。(ターゲットは修学旅行や学者)
- ② 将来にわたって、(金銭的に)維持・管理していけるようなやり方で活用してください。
- ③ 仕事(雇用)に結び付けてください。
- ③ ③については、お土産や関連商品の販売、食事や宿泊にどうつなげるか、いうことになります。特に、経済効果が高いのは、夜の食事と宿泊であり、今まで、本格的に大牟田では検討されていなかったもので、いち早く取り組む必要があります。(久留米、柳川、みやまでは、総合戦略の柱の一つとなっています。)

②については、一時的なブームに惑わされず、長期的な見通し(収入や維持管理コスト)を持って、事業を進めるべきだということです。(もちろん、素早くやるべきこと・やれることは、やったうえでのことですが)

①については、今後の整備・活用の方法や予算の優先順位を決めるうえで、とても重要なことを述べられています。おおまかな合意形成が必要だと思いません。

この機会をうまく活用することが大事であって、世界遺産登録を有難がたがり、規則に振り回されて、これらの遺産が市民から遠いものとなったり、

まちの活性化につながらないことに莫大な費用をかけたらしなように注意が必要です。

市議会6・12月定例会で質問しました

一般質問(平成27年6月23日)

- ① 世界遺産登録と近代化産業遺産について
 - ・観光振興と周辺整備
 - ・三川坑跡等の整備
- ② おおむたスーパープレミアム商品券について
- ③ 小・中学校のエアコン設置について
- ④ 高齢者移住への対応について

一般質問(平成27年12月9日)

- ① 市長の政治姿勢について
 - ・施政方針と市政運営
 - ・人口ビジョンとまちづくり総合プラン(案)
- ② 教育施策について
 - ・学力の向上
 - ・小中一貫教育の推進
- ③ 近代化産業遺産の管理と活用について
 - ・三川坑跡等の維持管理
 - ・経済効果
 - ・三池港の活用
- ④ ふるさと納税について

詳しくは、大牟田市議会ホームページ(議事録・インターネット録画中継)をご覧ください。

障害についての価値観の大転換

今年4月から障害者差別解消法が施行されます。それについての講演会に行き、次のような話を聞きました。

(問) 車椅子の人が、2階へ上がれないのは何が原因か？

- ジャンプして、2階に行ける人は、ほとんどいない。
- 階段なら、健常者のほとんどの人が上がれるが、足に障害のある人は、上がれない。
- エレベーターであれば、足に障害のある人も含め、ほぼすべての人が昇れる。

そこで、今、階段しかない建物があり、車椅子の人が、2階へ上がれないのは、

(答1) その人の足が悪いから(個人の能力の問題) と考えるのか

(答2) エレベーターをつけていないから(社会の合意の問題) と考えるのか。

こういった考え方は、それまで私の中にはなかったもので、とても参考になりました。とはいえ、講師の方は、実際はそれぞれのケースバイケースで出来ること出来ないことがある、とも付け加えていらつしやいました。

考え方の原則は、答2であるべきだけれど、費用がかかるのも事実だから、実際の対応は、それぞれのケースごとに判断してください、という意味だと思います。

福祉関係の方々の間では、答2の原則は、当然のことかもしれないかもしれませんが、まだまだ、浸透してはいないのが現実だと思います。

本当の意味で、豊かな社会とは何か、ということを考えさせられました。



皆様のご意見をお知らせください。

(連絡先) 〒836-0807 大牟田市上町1-3-3-M201
電話/ファックス 0944-52-5095

(電話は留守番電話のときが多いので、よろしかったら、
メッセージをお願いします。)

Eメール mail@mori-jun.com

ホームページ http://www.mori-jun.com/

(「大牟田市議会議員 森 じゅん」で検索してください。)

